

汚染土壌等処理対策実施報告書

年 月 日

(宛先) 川崎市長

対象地に係る土地所有者、事業者、管理者のうちいずれかの者で、本処理対策の実施について責任を持てる者の氏名を記入してください。

郵便番号 〒○○○—○○○○
住所 東京都○○区○○丁目○-○
○○工業株式会社
氏名 代表取締役 川崎 一郎

汚染土壌等処理対策実施計画書（第30号様式）
と同一名称を記載して下さい。

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市公害防止等生活環境の保全に関する条例第82条第4項の規定により、次の対象地について汚染土壌等処理対策を実施しましたので、その実施内容を次のとおり報告します。

名 称	○○工業株式会社川崎工場 □□□工事	
所 在 地	(住居表示)川崎市○○区○○町○○丁目○-○ (地番表示)川崎市○○区○○町○○丁目○番-○ 住居表示と地番表示の両方を記入してください。	
汚 染 土 壌 等 の 処 理 対 策 の 種 類	<input type="checkbox"/> 汚染の除去（対象地内対策）	別添のとおり 原位置浄化等、対象地内にて汚染の除去を行った場合にチェックを入れてください。
	<input checked="" type="checkbox"/> 汚染の除去（対象地外対策）	別添のとおり 掘削除去を行った場合にチェックを入れてください。
	<input type="checkbox"/> そ の 他 の 対 策	別添のとおり 舗装、封じ込め等の汚染の除去以外の対策を行った場合にチェックを入れてください。
	<input checked="" type="checkbox"/> 処 理 期 間 中 の 対 策	別添のとおり

備考 □のある欄には、該当する□内にレ印を記載してください。

汚染土壌等処理対策実施報告書チェックシート <詳細調査>

- 書類は2部（正本・副本）提出してください。
- 図面は、方位がわかるように記入してください。

		注意点等	チェック欄
1	対策工事の概要	下記を参考に概要を記載する。	
	1-1 調査対象地の所在地	—	
	1-2 工事の概要	工事の目的、面積、掘削深度、搬出土量、汚染の除去等の措置の有無等を記載する。	
	1-3 実施期間	対策開始日、汚染土壌搬出期間、汚染土壌の処理完了日等を記載する。	
	1-4 【変更があった場合】 計画からの変更点及び理由	日程や作業内容に変更があった場合その内容を記載する。 変更点は変更前後が分かるように示す。	
2	汚染状況を表した資料	汚染の状況を平面図や一覧表などで示す。	
3	対策方法を表した資料	対策内容をフローチャート、文章及び図面等で記述する。	
4	【汚染の除去等を実施した場合】 汚染の除去等の措置の内容	汚染の除去等の措置の内容が分かるようにフローや図面等で示す。効果確認の地下水調査を実施した場合は調査地点を示した図面及びその濃度計量証明書を添付する。	
5	対策後の汚染状況を表した資料	対策後の汚染の状況を平面図や一覧表などで示す。 汚染土壌を残置する場合は管理方法（地下水モニタリングや舗装等）を記載する。	
6	【土壌を敷地外から搬入する場合】 搬入土の品質管理	環境省告示第6号に定める方法に基づき、搬出元、搬入量、分析頻度等を記載する。また、土壌調査結果の濃度計量証明書を添付する。 なお、敷地内の土壌を埋戻し材として利用した場合は汚染がない土壌であることを記載する。	
7	工事写真	施工前、施工状況、施工後及び出来形確認等の写真を添付する。出来形管理については図表等を用いて示す。	
8	周辺環境保全対策	汚染土壌の飛散、流出及び仮置き等による二次汚染の防止対策等を記載する。	
9	【モニタリングを実施した場合】 周辺環境モニタリング	周辺環境モニタリングを実施した場合は、結果の概要を記載し濃度計量証明書を添付する。	
以下、汚染土壌を外部へ搬出した場合に添付する資料			
10	運搬フロー	汚染土壌を搬出する場所から汚染土壌処理施設までの汚染土壌の流れをフローで示す。 把握している場合は二次処理施設先まで記載する。	
11	管理票を整理した一覧表	管理票ごとに汚染土壌の重量、整理番号、交付年月日等を表にまとめる。	
	【別冊資料】 管理票C2票の写し	搬出した汚染土壌に係る管理票のC2票の写しをすべて提出する。 ただし、枚数が多いなど添付することが困難な場合は、管理票を整理した一覧表と管理票の内容が一致していることの確認を受けることで、管理票の添付を省略することができる。	

汚染土壌等処理対策実施報告書チェックシート <搬出土壌調査>

- 書類は2部（正本・副本）提出してください。
- 図面は、方位がわかるように記入してください。

		注意点等	チェック欄
1	報告の概要	下記を参考に概要を記載する。	
	1-1 調査対象地の所在地	—	
	1-2 工事の概要	工事の目的、面積、掘削深度、搬出土量等を記載する。	
	1-3 実施期間	対策開始日、汚染土壌搬出期間、汚染土壌の処理完了日等を記載する。	
	1-4 【変更があった場合】 計画からの変更点及び理由	日程や作業内容に変更があった場合その内容を記載する。 変更点は変更前後が分かるように示す。	
2	汚染状況を表した資料	汚染の状況を平面図や一覧表などで示す。	
3	対策方法を表した資料	対策内容をフローチャート、文章及び図面等で記述する。	
4	工事写真	施工前、施工状況、施工後及び出来形の写真を添付する。 掘削後の土壌を搬出する場合は、出来形写真は不要とする。	
5	【モニタリングを実施した場合】 周辺環境モニタリング	周辺環境モニタリングを実施した場合は、結果の概要を記載し濃度計量証明書を添付する。	
6	運搬フロー	汚染土壌を搬出する場所から汚染土壌処理施設までの汚染土壌の流れをフローで示す。 把握している場合は二次処理施設先まで記載する。	
7	管理票を整理した一覧表	管理票ごとに汚染土壌の重量、整理番号、交付年月日等を表にまとめる。	
	【別冊資料】 管理票C2票の写し	搬出した汚染土壌に係る管理票のC2票の写しをすべて提出する。 ただし、枚数が多いなど添付することが困難な場合は、管理票を整理した一覧表と管理票の内容が一致していることの確認を受けることで、管理票の添付を省略することができる。	